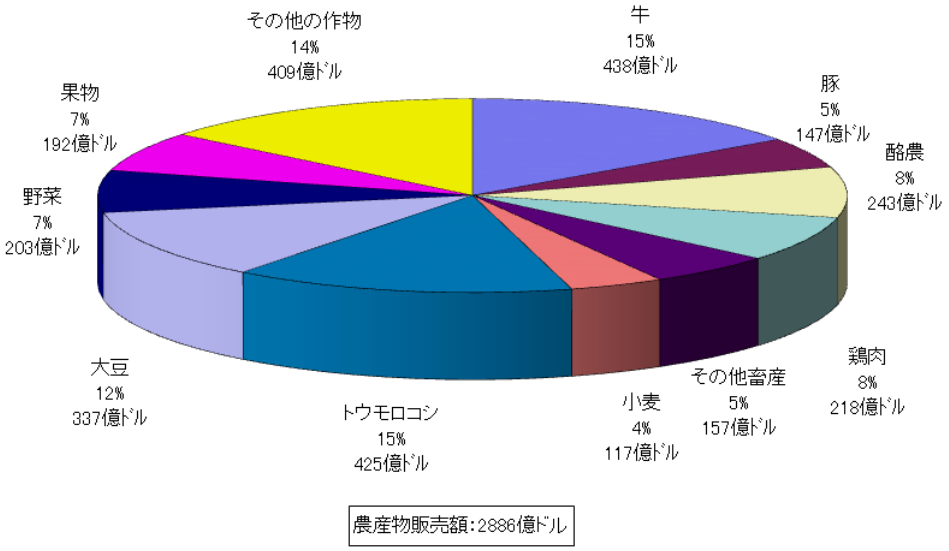
米　国

1　農・畜産業の概況

米国経済における農業の位置付けは、他産業の発展に伴い低くなる傾向にあり、2009 年においては、ＧＤＰに占める農業生産（農産物販売額：現金収入の暫定値）の割合は 2.0%と前年を 0.3 ポイント下回っている。世界的に見ると、農業生産額は中国に次いで第２位、農産物貿易総額は首位となるなど、米国農業の影響力は引き続き高い水準にあるといえる。

2009 年の農業経営体数（農産物の年間販売額１千ドル以上）は 197 万６千戸であった。農地用面積は 9 億 1989 万エーカー（3 億 7228 万ヘクタール）、１経営体当たりの農用地面積は 418 エーカー（169 ヘクタール）であった。なお、年間 10 万ドル以上の農産物販売実績のある経営体は全体の 6.8%で、全農用地面積の 16.1%を占めている。

図1　農産物販売額(2009 年)

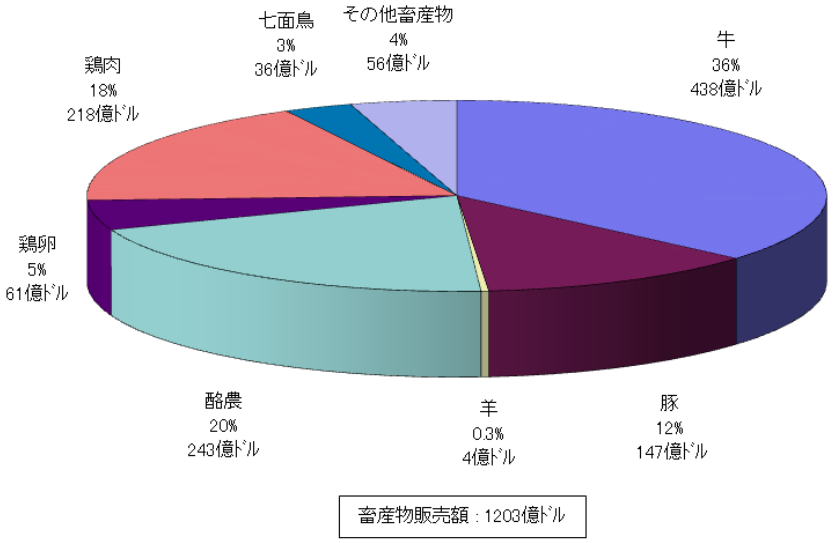


資料：USDA「United States and State Faram Income Data」

2009 年の農産物販売額（現金収入、自家消費分は含まない）は、2886 億ドルと前年を 11.0%下回った。このうち、作物部門は 1683 億ドルで前年比 8.1%減となった。畜産部門も前年を 14.7%下回る 1203 億ドルとなり、農産物全体に占めるシェアは、前年を 1.8 ポイント下回る 41.7%となった。

畜産部門における品目別の販売額を見ると、肉用牛が 438 億ドル（農産物全体に占める割合は 15.2%）と第 1 位で、次いで酪農が 243 億ドル（同 8.4%）となった。また、作物部門では、生産量の４割強が家畜飼料に仕向けられるトウモロコシの販売額が 425 億ドル（同 15.2%）と最大となっており、畜産が米国農業に与える影響は極めて大きい。

図２　畜産物販売額（2009 年）



資料:USDA「United States and State Faram Income Data

2　畜産の動向

（１）酪農・乳業

米国は年間約 8600 万トン弱の生乳を生産する世界最大の酪農国である。しかしながら、国内に巨大な消費市場を抱えていることなどから、国際乳製品市場における米国の地位は比較的低いものとなっている。

①主要な政策

酪農の主な制度には、連邦生乳マーケティング・オーダー制度（ＦＭＭＯ）と乳製品価格支持制度（ＤＰＳＰ）がある。ＦＭＭＯは、オーダー（生乳取引地域）内で取り引きされる生乳について、それを飲用向けと加工向け３分類の計４分類の用途別に分けてそれぞれの最低取引価格を設定するとともに、生乳取扱業者に対して、生産者へのプール乳価（用途別乳価を加重平均した乳価）での支払いを義務付けることにより、生産者に対しては安定的な市場を確保すること、また、消費者に対しては合理的な価格で十分な量の良質な飲用乳を供給することを目的としたものである。2000 年 1 月からは紆余（うよ）曲折を経て、①オーダ

一数の再編統合（当初の 31 から段階的に縮小され、2004 年４月からは 10 地域となった。）、②生乳の用途区分の再分類（３区分から４区分へ）、③最低取引価格の設定に用いられる価格について、これまでの基礎公式価格（ＢＦＰ）に代えて、多成分価格形成システムに基づく新基礎価格の導入－などの変更が加えられた。

一方、ＤＰＰＳＰは、米国農務省（ＵＳＤＡ）の１機関である商品金融公社（ＣＣＣ）が、支持価格でチーズ、バターおよび脱脂粉乳を買い上げることにより、加工原料乳の価格を間接的に支持する制度である。

この制度は 2008 年農業法において、これまでの加工原料乳価格支持制度の仕組みを実質的に維持した上で、名称を「乳製品価格支持制度」に改め、加工原料乳の支持価格を廃止して主要乳製品の支持価格を法律で定める制度に変更された。

②　生乳の生産動向

ア　酪農経営体数

酪農経営体数は、小規模層を中心に一貫して減少傾向で推移しており、2009 年には前年比 3.0%減の約６万５千戸となった。

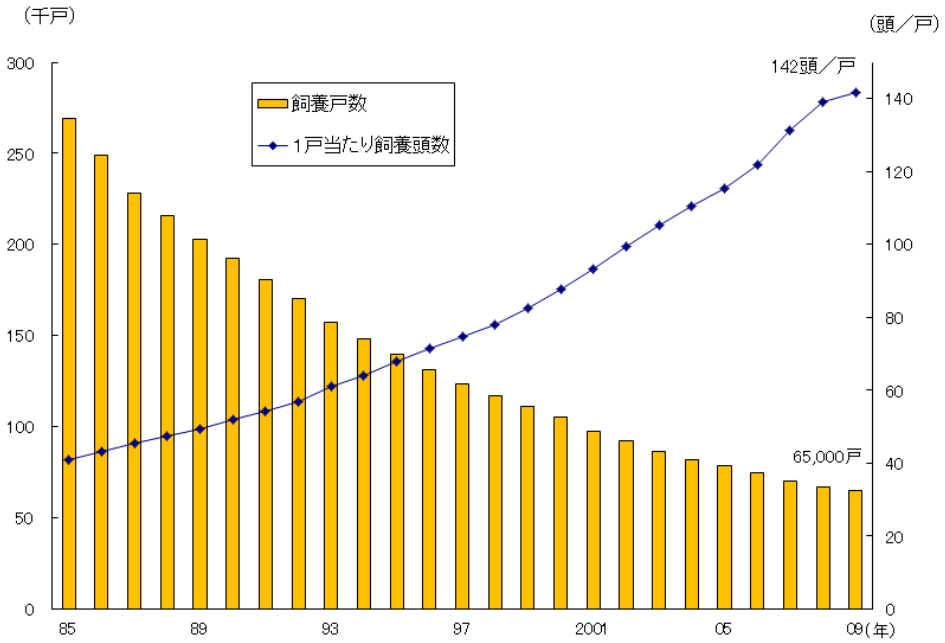
表 2　酪農経営体数、飼養頭数の推移

（単位:戸、千頭、頭／戸）

区分/年	2005	2006	2007	2008	2009
酪農経営体数	78,300	74,980	69,995	67,000	65,000
経産牛頭数	9,043	9,137	9,189	9,315	9,203
1戸当たり飼養頭数	116	122	131	139	142

資料：USDA「Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」「Agricultural Statistics」
「Milk Production, Disposition and Income」
注１：酪農経営体数は、2007 年以降と 2006 年以前では集計方法が異なる。
２：経産牛頭数は、年間平均の飼養頭数である。
３：１戸当たり飼養頭数は、経産牛頭数を経営体数で除したものである。

図3 酪農経営体数および飼養規模の推移



資料:USDA「Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」「Milk Production, Disposition and Income」

イ 飼養頭数と生産量

経産牛飼養頭数は、80 年代中頃から一貫して減少傾向で推移してきたが、99 年に下げ止まった後は、小幅な増減を繰り返している。2009 年の経産牛飼養頭数は、前年比 1.2%減の 920 万頭となった。

また、2009 年の生乳生産量は、前年比 0.3%減の 8588 万トンとなった。

表 3 生乳・乳製品の生産量

(単位:千トン)

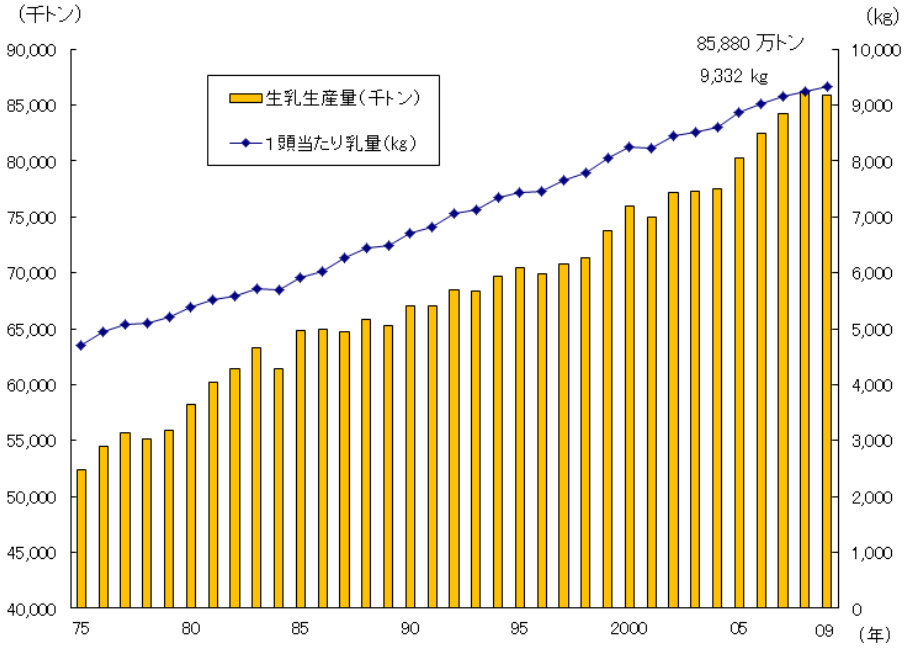
区分/年	2005	2006	2007	2008	2009
生乳	80,253	82,455	84,211	86,174	85,880
バター	611	657	695	746	713
脱脂粉乳	549	564	589	689	686
チーズ	4,150	4,320	4,435	4,496	4,570

資料:USDA「Milk Production, Disposition and Income」、「Dairy Products」
注:チーズはカッテージチーズを除く。

ウ 経産牛 1 頭当たり乳量

経産牛 1 頭当たり乳量は、増加傾向で推移しており、2009 年では、前年比 0.9%増の 9,332 キログラムとなった。

図４　生乳生産量と１頭当たり乳量の推移



資料：USDA「Milk Production, Disposition and Income」

エ　地域別生産動向

生乳は、すべての州において生産されているが、生産量の５割強は上位５州（カリフォルニア、ウィスコンシン、ニューヨーク、アイダホ、ペンシルバニア）によって占められており、上位 10 州（６位以下：ミネソタ、テキサス、ミシガン、ニューメキシコ、ワシントン）では全体の 7 割強を占めている。93 年にウィスコンシン州を抜いて国内最大の生乳生産州になったカリフォルニア州は、その後も生産を拡大していったが、2008 年終盤の国際乳製品価格の暴落を受けて乳価低迷に苦しんだ同州の生産者は乳牛のとう汰を実施し、2009 年の生産量は前年比 4.1%減の 1792 万トンとなった。また、第２位のウィスコンシン州は、同 3.1%増の 1145 万トンとなった。

カリフォルニア州を代表とする西部の新興生産地域は、冬期でも比較的温暖で乾燥しているために畜舎などへの投資コストが低く、さらに安価な労働力も確保しやすいことなどから、大規模化が図りやすいという利点があるが、購入飼料に依存しているという特徴がある。金融危機により乳価が低迷する中、同地域の酪農家は、資金調達が困難となり経営状況が悪化した。

酪農家での乳牛飼養風景

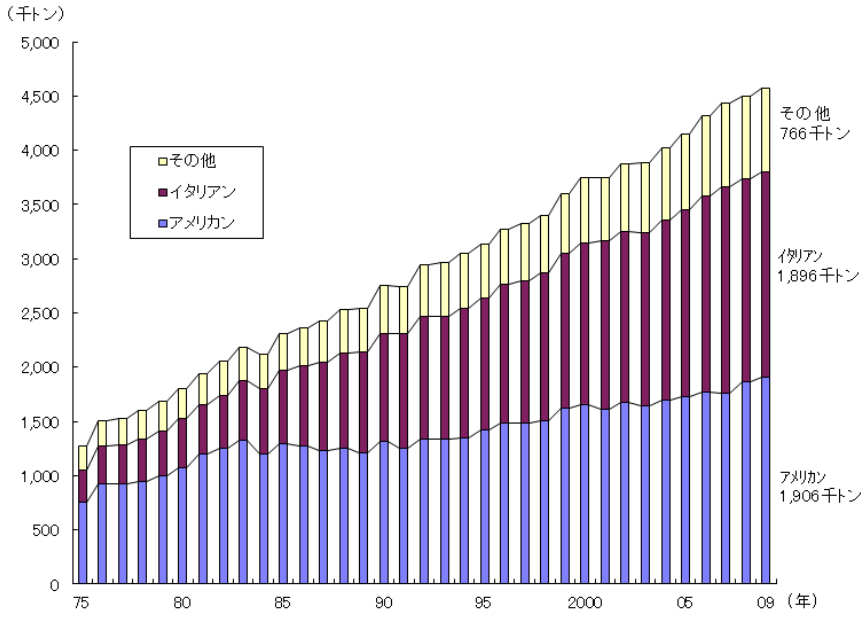
③　牛乳･乳製品の需給動向

ア　生産動向

2009 年のチーズの生産量（カッテージチーズを除く。）は、前年比 1.7%増の 457 万トンとなった。このうち、チェダーチーズを中心とするアメリカンタイプの生産量は同 2.3%増（190 万６千トン）となり、モッツァレラチーズなどイタリアンタイプの生産量は同 1.4%増（189 万６千トン）となった。イタリアンタイプは、宅配ピザやファストフードでの需要の増加により過去 20 年以上増加基調で推移してきた中、2008 年は減産となったが、2009 年は再び増産となった。同年のチーズ生産量では、アメリカンタイプが 41.6%、イタリアンタイプが 41.4%のシェアを占めた。

また、脱脂粉乳の生産量は、前年比 0.5%減の 68 万６千トン、バターの生産量については、前年比 4.4%減の 71 万３千トンとなった。

図５　チーズ生産量の推移



資料：USDA「Dairy Products」

イ　消費動向

１人１年当たりの飲用乳・クリーム消費量（製品ベース、以下同じ）は、ほかの飲料との競合などにより、近年、おおむね減少傾向で推移してきたが、2009 年は前年比 0.5%増の 93.0 キログラムとなった。なお、飲用乳の消費は、全脂牛乳から低脂肪牛乳、脱脂牛乳へと低脂肪タイプへの移行が進んでいる。

一方、１人１年当たりのチーズ（カッテージチーズを除く。）消費量は、近年、増加傾向で推移していたが、2009 年は前年比 1.5%増の 15.1 キログラムとな

った。また、1人1年当たりのバター消費量は、前年比2.0%増の2.3キログラムとなった。

④ 牛乳･乳製品の価格動向

ア 生乳価格

2009年の加工原料乳の平均価格（グレードＢ規格生乳の農家販売価格）は、世界金融危機に伴い牛乳・乳製品の需要が低下したことから、前年比32.0%安の100ポンド当たり12.17ドルとなった。また、同年の生乳平均販売価格は、前年比30.4%安の12.82ドルとなった。

表４ 生乳の生産者販売価格

（単位:ドル／100ポンド）

区分/年	2005	2006	2007	2008	2009
加工原料乳価格	14.42	12.19	18.31	17.91	12.17
生乳平均価格	15.19	12.96	19.21	18.41	12.82

資料：USDA「Agricultural Price」

注：加工原料乳価格は、グレードＢの加工規格の生乳価格である。

イ 乳製品の卸売価格

2009年の乳製品の卸売価格も、世界金融危機に伴う国際価格の低下を反映して、大きく下落した。脱脂粉乳の年平均価格は前年比23.6%安のポンド当たり95.2セントと大幅に下落し、チェダーチーズは同31.8%安の125.2セント、バターは同15.0%安の124.3セントとなった。

表５ 乳製品の卸売価格の推移

（単位:セント／ポンド）

区分/年	2005	2006	2007	2008	2009
バター	154.8	123.6	136.8	146.3	124.3
脱脂粉乳	95.1	90.4	177.6	124.6	95.2
チェダーチーズ	144.8	121.9	174.1	183.6	125.2

資料：USDA「Dairy Market News」

注1：バターはシカゴ・マーカンタイル取引所の現物価格（グレードAA）である。

2：チーズはシカゴ・マーカンタイル取引所の現物価格である。

小売店でのチーズの陳列風景

⑤　乳製品の政府買い上げ

2007 年は堅調な輸出需要を反映して米国内の乳製品価格が堅調に推移したことから、商品金融公社（ＣＣＣ）による余剰乳製品の買い上げは実施されなかったが、2008 年は脱脂粉乳の国際需給の緩和により、価格が急落したことから脱脂粉乳で実施された。2009 年は、国際価格の低迷を受け乳製品価格が低下したことから、脱脂粉乳、バターおよびチーズにおいて買い上げが実施された。

表６　乳製品の政府買い上げ数量の推移

（単位：千トン）

区分/年	2005	2006	2007	2008	2009
バター	0	0	0	0	12.9
チーズ	▲1.0	0	0	0	1.5
脱脂粉乳	▲37.0	28.3	0	50.2	104.2
乳脂肪分ベース（生乳換算量）	▲17.7	6.4	0	10.9	318.9
無脂乳固形分ベース（生乳換算量）	▲440.9	330.2	0	584.6	1230.6

資料：USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook：Tables」

注：▲は売り渡し

（２） 肉牛･牛肉産業

米国は、世界の牛肉生産量の約２割を占める最大の生産国であると同時に、世界最大の牛肉輸入国でもある。国内的にも、肉牛産業は農産物販売額に占める割合が最大となっており､米国農業の中でも最も重要な部門の一つとなっている。

肉用子牛生産は、家族経営による粗放的な生産・管理が行われる一方、育成された肥育素牛は、大規模なフィードロットで効率的な穀物肥育が行われている。また、肉牛の流通面では、大手パッカーによる寡占化が顕著となっている。

① 肉牛の生産動向

ア 肉用牛繁殖経営体数

肉用牛繁殖経営体数（年間に１頭以上飼養）は、近年減少傾向で推移しており、2010 年も前年比 1.2%減の 74 万２千戸となった。

表７ 肉用牛繁殖経営体数、飼養頭数の推移

（単位:戸、千頭、頭／戸）

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010
肉用牛繁殖経営体数	762,880	766,350	757,000	751,000	742,000
繁殖雌牛頭数	32,994	32,891	32,435	31,712	31,376
1戸当たり飼養頭数	43	43	43	42	42

資料：USDA「Cattle」「Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」「Agricultural Statistics」

注１：肉用牛繁殖経営体数は、2007 年以降と 2006 年以前では集計方法が異なる。

２：繁殖雌牛頭数は、各年１月１日現在のものである。

３：１戸当たり飼養頭数は、繁殖雌牛頭数を経営体数で除したものである。

イ 飼養頭数

2010 年１月１日現在の牛総飼養頭数は､前年比 0.9%減の 9370 万頭となった｡米国のキャトルサイクルは、95 年をピークに９年連続で減少した後、2005 年にはいったん上昇局面に転じた。しかし、2006 年のテキサス州を中心とした中南部における干ばつ、また、2006 年後半以降の飼料コスト高の影響などにより、肉用牛繁殖経営の収益性が悪化し、肉用繁殖雌牛の規模拡大が抑制された結果、牛の総飼養頭数は減少傾向で推移している。

2010 年１月１日現在の飼養頭数の内訳を見ると､肉用繁殖雌牛は前年比 1.1%減の 3138 万頭、また、500 ポンド(約 227 キログラム)以上の肉用繁殖後継牛は、前年比 1.7%減の 544 万頭となった。

さらに、2009 年における子牛生産頭数（乳用種を含む）は、肉用繁殖雌牛の飼養頭数が伸び悩んだことにより、前年比 0.9%減の 3,582 万頭となった

フィードロットの風景

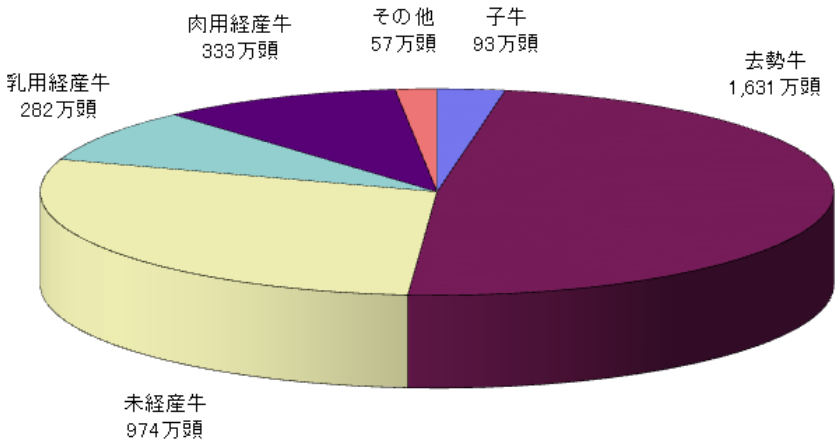
② 牛肉の需給動向

ア 生産動向

2009 年の成牛と畜頭数（コマーシャルベース）は、前年比 3.0%減の 3334 万頭となった。

種類別（連邦政府検査ベース）では、去勢牛が前年比 3.8%減、未経産牛は前年比 3.5%減となる一方、経産牛は前年比 0.3%減と多かった前年並みとなった。

図６ 種類別と畜頭数（2009 年）



資料：USDA「Livestock Slaughter」

一方、2009 年の成牛のと畜時平均生体重（連邦政府検査ベース）は、前年比 5.4 キログラム増の 587.9 キログラムとなった。また、平均枝肉重量（連邦政府検査ベース）も、前年比 2.7 キログラム増の 355.6 キログラムと前年を上回った。

この結果、2009 年の牛肉生産量（枝肉重量ベース）は、前年比 2.2%減の 1182 万トンとなった。

表８　牛肉需給（枝肉換算）の推移

（単位:千トン）

区分/年	2005	2006	2007	2008	2009
生産量	11,243	11,910	12,031	12,095	11,824
輸入量	1,632	1,399	1,384	1,151	1,191
輸出量	316	519	650	856	878
在庫量	259	286	286	291	256
消費量	12,589	12,763	12,765	12,384	12,173
１人当たり消費量（年間、kg）	29.7	29.9	29.6	28.4	27.7

資料：USDA「Livestock, Dairy and Poultry Outlook：Table」
注：１人当たり消費量は小売重量ベースである。

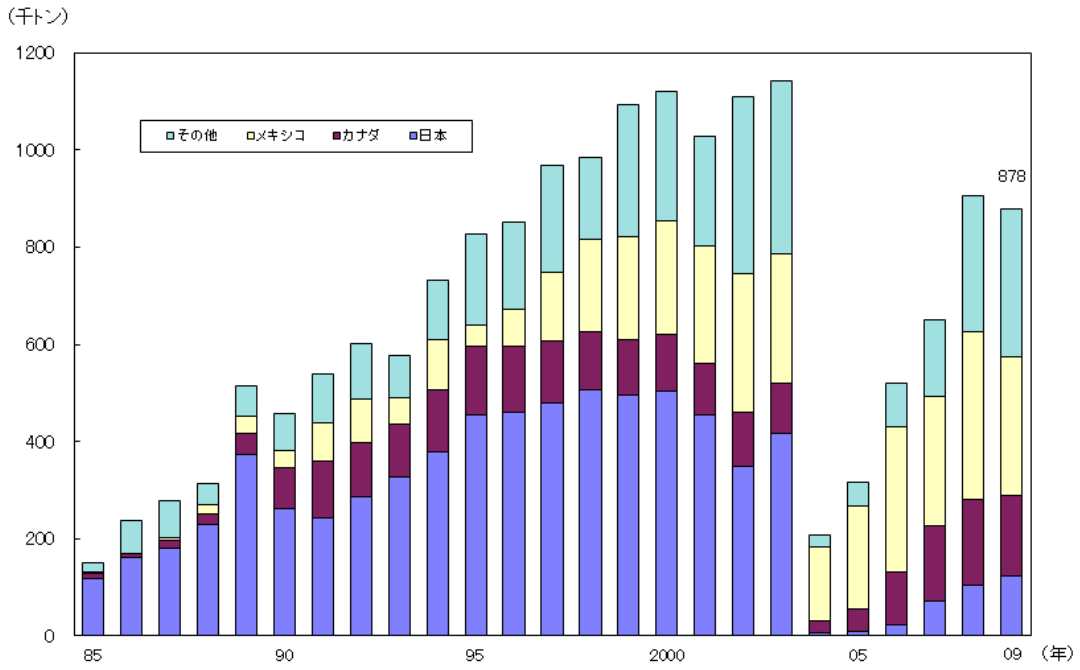
イ 輸出入動向

2009 年の牛肉輸入量（枝肉重量ベース）は、米国内の生産量が減少したことなどから、前年比 3.5%増の 119 万１千トンとなった。国別に見ると、最大の輸入先のカナダは同3.4%減の36万９千トンとなったものの、豪州は同国のと畜頭数が増加したことなどから前年比 19.4%増の 35 万９千トンとなった。

一方、同年の生体牛の輸入は、メキシコは前年比 33.9%増の 94 万１千頭となったものの、カナダは同 32.9%減の 106 万１千頭となり、全体では同 12.4%減の 200 万２千頭となった。

2003 年 12 月、米国内で初めてＢＳＥが発生した影響を受け、2004 年に大幅に減少した牛肉輸出量は 2005 年以降順調に回復したが、2009 年には前年比 3.1%減の 87 万８千トンと前年をやや下回った。国別では、メキシコ向けは同 3.2%減の 28 万５千トン、カナダ向けは同 6.7%減の 16 万５千トンとなった。また、2003 年まで最大の輸出相手国であった日本向けは、前年比 18.7%増の 12 万４千トンとなり、３年連続で第３位の輸出先となった。

図７　牛肉の輸出量と相手国



資料：USDA/ERS「Livestock and Meat Trade Data」

③　肉牛・牛肉の価格動向

ア　肥育素牛価格

肥育素牛価格（オクラホマシティー、600～650 ポンド）は、2009 年平均では、100 ポンド当たり 101.9 ドルと前年を 5.3%下回った。

イ　肥育牛価格

2009 年の肥育主要 12 州（アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイダホ、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、ニューメキシコ、オクラホマ、サウスダコダ、テキサス、ワシントン）における肥育素牛導入頭数は、前年比 0.5%減の 2219 万頭、また、肥育牛出荷頭数は前年比 3.2%減の 2169 万頭となった。

チョイス級肥育牛価格（ネブラスカ、1,100～1,300 ポンド、去勢牛）は、2009 年平均で 100 ポンド当たり 82.7 ドルとなり、前年に比べて 10.4%と大きく下落した。これは、2008 年秋の金融危機に端を発する景気後退を受けて牛肉の需要が落ち込んだことなどが要因と考えられる。

ウ　牛肉卸売価格

2009 年の卸売価格（チョイス級、600～900 ポンド、カットアウトバリュー）は、前年比 8.1%安の 100 ポンド当たり 140.8 ドルとなった。

エ　牛肉小売価格

牛肉の 2009 年の平均小売価格（チョイス級）は、前年比 1.5%安のポンド当たり 426.0 セントとなった。

表９　肉牛、牛肉の価格の推移

（単位:ドル/100ポンド）

区分/年	2005	2006	2007	2008	2009
肥育素牛	120	117.7	115.4	107.6	101.9
肥育牛	87.3	85.4	91.8	92.3	82.7
牛肉卸売価格（ｶｯﾄｱｳﾄﾊﾞﾘｭｰ）	145.8	146.8	149.8	153.2	140.8
牛肉小売価格（ｾﾝﾄ/ﾎﾟﾝﾄﾞ）	409.2	397	415.9	432.5	426

資料：USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook：Table」

注：カットアウトバリューとは、各部分肉の卸売価格を１頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。
枝肉そのものではない。

（３）　養豚・豚肉産業

米国の養豚産業は、アイオワ州やイリノイ州を中心とするコーンベルト地帯において、伝統的に穀物生産や肉牛経営の副業として営まれてきた。一方、ノースカロライナ州やオクラホマ州でのインテグレーションの出現が、養豚産業に対し、生産・流通などの面で大きな変化をもたらしてきた。また、大規模経営体による環境問題が顕在化しており、各州において環境規制を強化する動きがみられている。

95年に40数年ぶりに純輸出国に転じた豚肉輸出は、2007年までは一貫して右肩上がりで推移し、2008年は旺盛な世界需要を反映して前年比48.8%増と急増した。2009年は前年比12.0%減となったものの2007年比では30.3%増となっている。

①　豚の生産動向

ア　養豚経営体数

養豚経営体数は、大規模層を除きおおむね各層で減少傾向で推移しており、2009年は７万１千戸となった。１経営体当たりの飼養規模別では、100頭未満の層が全経営体数の70.5%を占めているものの、飼養頭数では全体の0.9%を占めるにすぎない。一方、５千頭以上の層は、経営体数全体の4.1%にすぎないが、全飼養頭数の62.0%を占めており、この割合は上昇傾向にある。

表１０　養豚経営体数、飼養頭数の推移

（単位:戸、千頭、頭／戸）

区分/年	2005	2006	2007	2008	2009
養豚経営体数	67,280	65,940	75,450	73,150	71,450
繁殖雌豚頭数	61,449	62,490	68,177	67,148	64,887
1戸当たり飼養頭数	913	948	904	918	908

資料：USDA「Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」
「Agricultural Statistics」「Quarterly Hogs and Pigs」

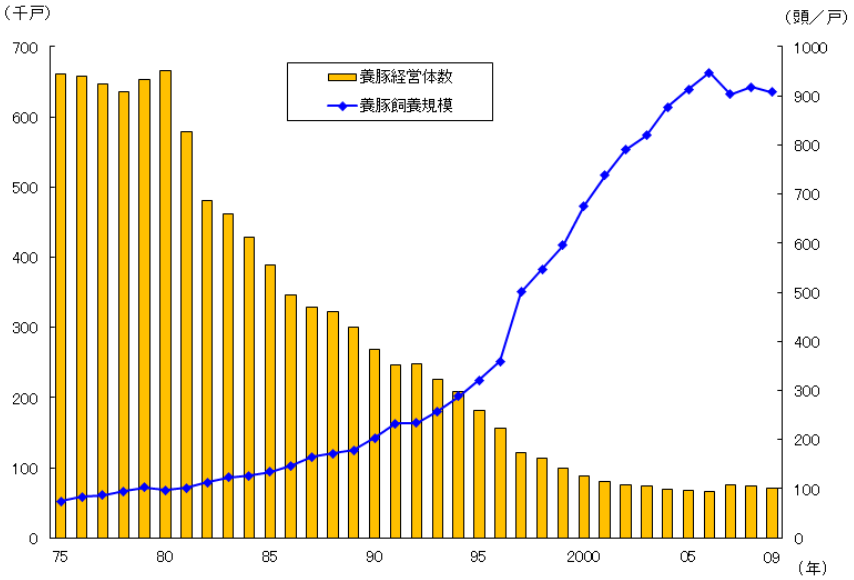
注１：養豚経営体数は、2007年以降と2006年以前では集計方法が異なる。
２：飼養頭数は、各年の12月１日現在のものである。

イ 飼養頭数

豚飼養頭数は、2003 年以降は増加傾向で推移していたが、2007 年をピークに減少し、2009 年(12 月 1 日現在)では、前年比 3.4%減の 6489 万頭となった。飼養頭数の内訳を見ると、繁殖用豚は前年比 3.5%減の 585 万頭に、また、肥育豚は前年比 3.4%減の 5904 万頭となった。

2009 年（2008 年 12 月～2009 年 11 月）の子豚生産頭数は、一腹当たり産子数が前年比 2.2%増の 9.62 頭となったものの、繁殖母豚が前年比 2.6%減となったことから、1 億 1454 万頭と前年より 0.4%減少した。

図８　養豚経営体数および飼養規模の推移



資料：USDA「Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」「Quarterly Hogs and Pigs」

肉豚の飼養風景

① 豚肉の需給動向

ア 生産動向

2009 年のと畜頭数（コマーシャルベース）は、前年比 2.4%減の 1 億 1362 万頭となり、豚肉生産量も前年比 1.5%減の 1 億 442 万トンに減少した。

なお、2009 年のと畜時平均生体重（連邦政府検査ベース）は、前年比 1.1%増の 122.9 キログラム、また、平均枝肉重量（同）は、前年比 1.0%増の 92.1 キログラムとなった。

表 11 豚肉需給（枝肉換算）の推移

（単位:千トン）

区分/年	2005	2006	2007	2008	2009
生産量	9,392	9,559	9,962	10,599	10,442
輸入量	464	449	439	377	378
輸出量	1,209	1,359	1,425	2,117	1,857
在庫量	218	224	235	288	238
消費量	8,660	8,643	8,964	8,806	9,013
1人当たり消費量（年間、kg）	22.7	22.4	23.0	22.4	22.7

資料：USDA「Livestock, Dairy and Poultry Outlook：Table」

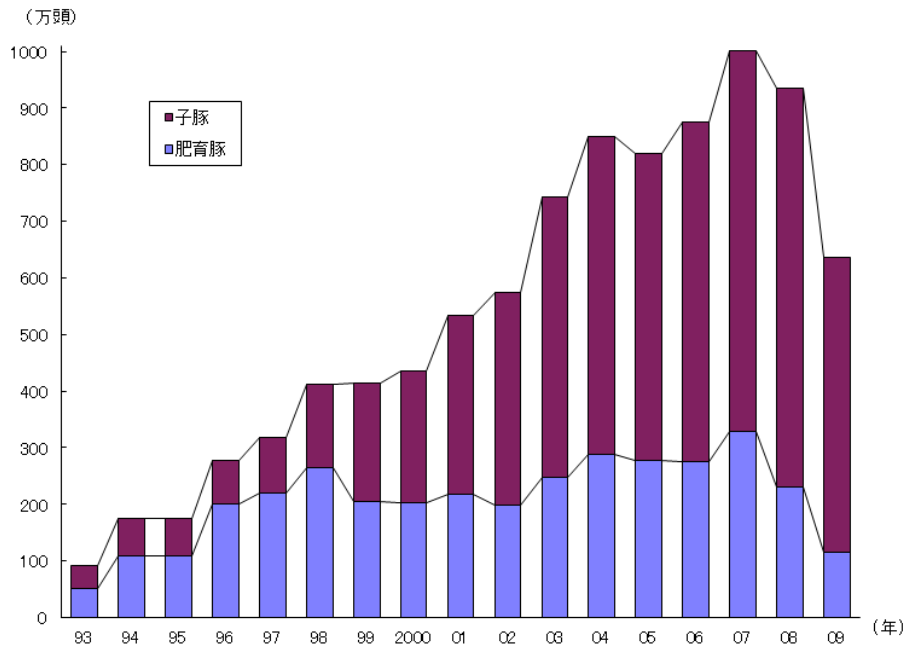
注：1 人当たり消費量は小売重量ベースである。

イ 輸出入動向

豚肉の輸入量（枝肉重量ベース）は、2004 年以降は減少傾向で推移してきたが、2009 年は前年比 0.3%増の 37 万８千トンとわずかに増加した。国別に見ると、カナダが 30 万８千トン（総輸入量に占める割合は 81.3%）、デンマークが３万７千トン（同 9.8%）となった。

また、生体豚の輸入は、ほぼ 100%がカナダからのものである。同国からの輸入頭数は、同国の飼養頭数の減少や 2008 年９月末から実施された食肉の原産地表示の実施などの影響から、2009 年は、減少した前年を 31.9%下回る 636 万５千頭とさらに大幅減となった。

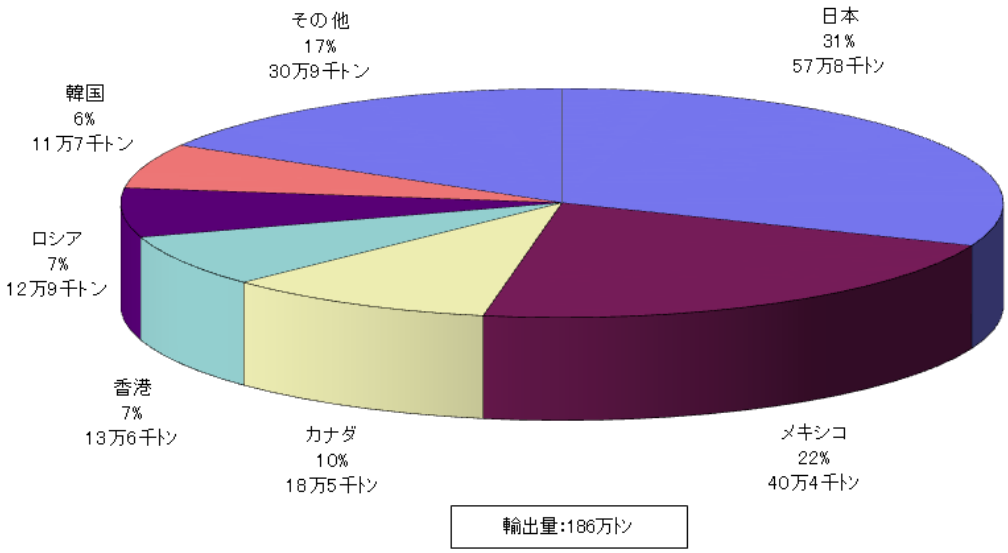
図９　カナダからの生体豚輸入頭数の推移



資料：USDA/ERS「Livestock and Meat Trade Data」

一方、輸出量（枝肉重量ベース）は 91 年以降、毎年前年を上回って推移してきた。しかし、2009 年は、世界的な景気の後退による需要の減退や、４月末に米国において新型インフルエンザ（A／H1N1）が発生したことに伴い、十数カ国が米国または米国の一部の州からの輸入を禁止したことから、前年比 12.0%減の 185 万７千トンとなった。国別をみると、最大の輸出先である日本向けが同 3.8%減の 57 万８千トン、第２位のメキシコ向けは、景気停滞により需要が減った牛肉の代替需要が増えて、同 35.3%増の 40 万４千トン、また、カナダ向けは、同 3.7%減の 18 万５千トンとなり、このほかにも中国向けが半分以下の 16 万１千トンになるなど減少した。

図 10　豚肉の輸出相手国（2009 年）



資料：USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook」

ウ　消費動向

１人１年当たりの豚肉消費量（小売重量ベース）は、近年ほぼ横ばいで推移しており、2009 年は、前年比 1.4%増の 22.7 キログラムとなった。

③　肥育豚･豚肉の価格動向

ア　肥育豚価格

肥育豚取引価格は、輸出量が増大したことなどから 2003 年に上昇に転じたが、2005 年以降は生産量の増加などにより低下傾向となり、2009 年の世界的な景気の後退や新型インフルエンザなどによる国内外の需要の減退を受けて、前年比 13.8%安の 41.2 ドルと 2006 年以降最大の落ち込みとなった。

表 12　肥育豚、豚肉の価格の推移

（単位:ドル/100ポンド）

区分	2005	2006	2007	2008	2009
肥育豚	50.0	47.3	47.1	47.8	41.2
豚肉卸売価格（ｶｯﾄｱｳﾄﾊﾞﾘｭｰ）	69.8	67.6	67.5	69.2	58.1
豚肉小売価格（セント/ポンド）	282.7	280.7	287.0	293.7	292.0

資料：USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook：Table」

注１：肥育豚価格は、全米の平均価格。

２：カットアウトバリューとは、各部分肉の卸売価格を１頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。枝肉そのものではない。

イ 豚肉価格

（ア）部分肉卸売価格

2009 年の部分肉卸売価格（カットアウトバリュー）は、前年比 16.0%安の 100 ポンド当たり 58.1 ドルとなった。

（イ） 豚肉小売価格

2009 年の豚肉の平均小売価格は、前年比 0.6%安の 1 ポンド当たり 292.0 セントとなった。

（４） 養鶏・鶏肉産業

米国の養鶏産業は、飼料穀物の大生産国という利点を生かし、生産から流通までの一貫したインテグレーションの進展により、極めて効率的な生産が行われている。また、国内では、消費者の健康志向からむね肉を中心として消費を大きく伸ばすと同時に、不需要部位のもも肉を中心として鶏肉生産量の約 19%を輸出している。

① ブロイラーのふ化羽数の動向

2009 年のブロイラーふ化羽数は、ブロイラー価格（生体１ポンド当たりの生産者販売価格）が前年を下回って推移したことなどから、前年比 3.7%減の 91 億２千万羽となった。

② 鶏肉の需給動向

ア 生産動向

2009 年のブロイラー生産量は、ブロイラーふ化羽数の減少により、前年を 3.8%下回る 1594 万トンとなった。1 羽当たり平均重量（生体ベース）は、骨なしむね肉の需要増に伴うブロイラーの大型化を背景に近年増加傾向にあり、2009 年には前年比 0.2%増の 2.54 キログラムとなった。

表 13 ブロイラー需給（可食処理ベース）の推移

（単位：千トン）

区分/年	2005	2006	2007	2008	2009
生産量	15,869	15,930	16,226	16,561	15,935
輸入量	19	27	36	43	45
輸出量	2,360	2,361	2,678	3,157	3,093
在庫量	413	332	326	338	279
消費量	13,434	13,676	13,590	13,435	12,946
1人当たり消費量（年間、kg）	39.0	39.3	38.6	37.9	36.2

資料：USDA「Livestock, Dairy and Poultry Outlook：Table」

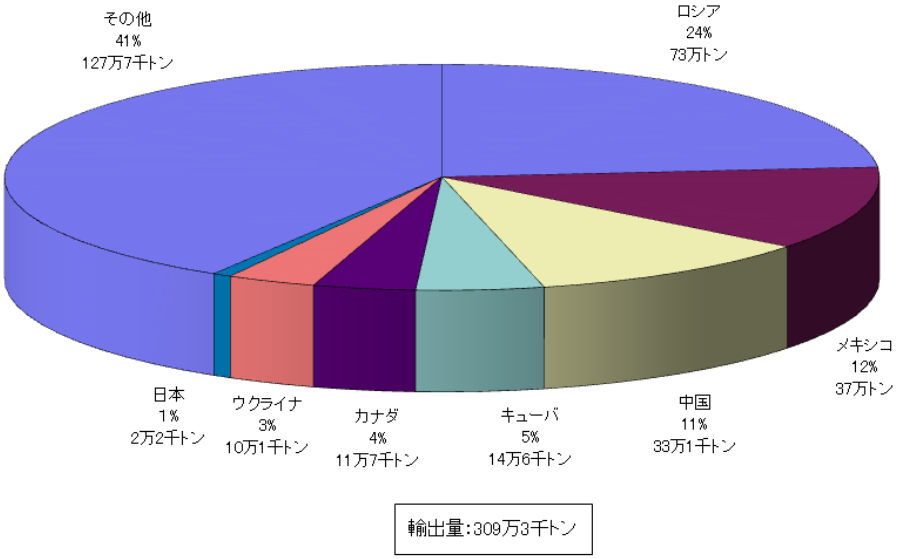
注：１人当たり消費量は小売重量ベースである。

イ 輸出動向

ブロイラーの輸出量は、2005 年以降増加傾向で推移していたが、2009 年は前年比 2.0%減の 309 万トンとなった。

輸出先上位３カ国を見ると、ロシア向けは関税割当量の減少などにより前年比 11.4%減、メキシコ向けは景気悪化に伴う低価格志向などにより同 20.0%増、中国向けは同 0.7%減となった。

図 11　鶏肉の輸出相手国（2009 年）



資料：USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook」

ウ　消費動向

１人１年当たりの鶏肉消費量（小売重量ベース）は、健康志向の高まりや加工度の高いアイテムの増加などから順調な伸びを示してきたが、2009 年は小売価格の上昇などから前年比 4.5%減の 36.2 キログラムとなった。

③　ブロイラーの価格動向

ア　ブロイラー価格

2009 年のブロイラー価格は、前年を 1.3%下回るポンド当たり 45.2 セントとなった。

イ 鶏肉価格

（ア）　卸売価格

2009 年のブロイラーの丸どり卸売価格（中抜き、12 都市平均）は、前年比 2.6%安のポンド当たり 77.6 セントとなった。なお、国内向けが主体となっているむね肉が１ポンド当たり 130.3 セント（前年比 0.9%高）であるのに対し、輸出向けが主体のもも肉は同 54.9 セント（同 13.0%安）と、日本とは異なり、むね肉はもも肉の２倍以上の高値となっている。

（イ） 小売価格

ブロイラーの丸どり小売価格（中抜き）は、前年比5.9%高の1ポンド当たり127.8セントとなった。

表14 ブロイラー、鶏肉価格の推移

（単位:セント/ポンド）

区分	2005	2006	2007	2008	2009
生産者販売価格（生体）	43.3	36.3	43.6	45.8	45.2
卸売価格（丸どり）	70.8	64.3	76.4	79.7	77.6
丸どり小売価格	105.6	104.9	111.5	120.7	127.8

資料：USDA「Livestock, Dairy and Poultry Outlook：Table」

（５） 飼料穀物

米国は、世界最大の飼料穀物の生産・輸出国である。飼料穀物の主力であるトウモロコシについては、世界の生産量の約４割、輸出量についてはその約５割を占めていることなどから、世界の需給動向に与える影響力は極めて大きなものとなっている。

① 穀物の生産動向

2009／10年度（９～８月）のトウモロコシ（サイレージ用を除く）の生産量は、前年度比8.3%増の130億9186万ブッシェル（3億325万トン）と過去最高を記録した。これは、１エーカー（約0.4ヘクタール）当たりの単収が、同7.0%増の164.7ブッシェル（１ヘクタール当たり10.5トン）と過去最高を記録した上に、収穫面積が前年度を1.2%上回った（7949万エーカー（3217万ヘクタール））ためである。

2009／10年度末在庫は、前年度比2.1%増の17億779万ブッシェル（4338万トン）となった。

表 15　トウモロコシ需給の推移

（単位:百万トン）

区分/年度	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10
生産量	282	268	331	307	333
国内消費量	232	231	262	259	282
うち飼料向け	156	142	149	132	130
輸出量	54	54	62	47	50
期末在庫量	50	33	41	42	43

資料：USDA「Feed Grain Database: Yearbook Tables」

トウモロコシの生産風景

②　穀物の輸出動向

2009／10 年度のトウモロコシの輸出量は、前年度比 7.1%増の 5030 万トンとなった。このうち、最大の輸出先国である日本向けは、前年度比 2.5%減の 1512 万８千トンと、輸出量全体の 30.1%を占めており、次点のメキシコ向けは同 5.3%増の 825 万３千トンとなっている。

③　穀物の価格動向

2009／10 年度のトウモロコシの生産者販売価格は、燃料用エタノール原料向け需要が引き続き増加した一方、飼料および輸出向け需要は前年を下回り、前年度比 12.6%安の１ブッシェル当たり 3.55 ドルとなった。

表 16　トウモロコシ価格の推移

（単位:ドル/ブッシェル）

区分/年度	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10
生産者販売価格	2.00	3.04	4.20	4.06	3.55

資料：USDA「Agricultural Prices」